

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300462
法人名	有限会社 ケア・サポート島原
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	〒855-0075 長崎県島原市下折橋町3433-1 (電話) 0957-65-0381

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年1月20日	評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(H20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	8月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	10 人	常勤	6人,	非常勤 4人, 常勤換算 4.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,166 円	その他の経費(月額)	無	実費
敷金	有(円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無		有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900	円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		3 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 84.3 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八尾病院・柴田長庚堂病院・島原保養院・スマイル歯科
---------	---------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周囲には畑も広がる静かな住宅地の中の立地で、程近い距離に商店、学校もある利便性のよい地域にあるホームである。室内に使われている「青空」の柄のクロスや、楽しいデザインロゴの印象にも、ホームの名称と理念に込められた思いが伝わってくる。また、運営者が語った「雲の切れ間に青空が見えたときの嬉しさ、晴れ晴れした気持ち」を目指したさわやかな笑顔による職員の支援に「あおぞら」の理念が映し出される。日々のケアについて思うこと、アピールしていきたいこととして挙げられたのは、「聞く」より「聴く」ということであった。入居者が望まれていることを引き出して、出かけた場所へ出かけること、食べたいものなどを提供すること、その為に会話の中で引き出し、入居者の声に心から耳を傾けていきたいということであった。理念に沿って、入居者が安心して第二の我が家の暮らしができるように、職員育成とチームワークを大切にされているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価に基づく改善点には真摯に取り組む姿勢をもって現在も検討、調整中である。災害対策に関しては設備の充実を図り、自然災害対策、備蓄は具体的な取り組みを検討していくとしている。食事を楽しむ支援に関しては、現状を見据えながら今後の検討課題としているので、取り組みへのプロセスを全員で共有し、確認していく上で、改善計画シートの作成が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員を中心に全員で取り組んだ。自己評価票を全員にコピーして渡し各自記入したものを職員で取りまとめている。個々の職員の支援に関する理解、到達度を推し量ることができ、日々のケアに対する振り返りの機会として有効に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、家族代表、町内会長、地域包括支援センター職員、運営者、職員をメンバーとして開催されている。会議においては活動状況をまとめて会議資料として毎回配布し報告している。今後会議内容の充実を図るべく、ホームの活動をよりわかり易く伝えるため会議メンバーの行事参加、見学、交流の場を会議に取り入れていくことも今後検討したいとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族面会時には必ず近況を伝え、会話を多く持つよう話しやすさに気遣いながら意見要望について傾聴の姿勢をとっている。年に1回の敬老祝賀会の際にも家族に集まっていたいで話し合いの場を設けたり、面会時に限らずこまめに家族とは日常連絡を絶やさぬようにしている。今年度中にはかねてよりの懸案であったホーム便りの発行を目指し準備中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民との日常的な交流をはじめ、職員と入居者で近隣の清掃活動もおこなっている。また自治会、地区の大きな行事(祭りなど)にも参加していて地域とのつきあいは良好、活発であり、消防団を含め連携がとられている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一、基本的人権の保護 二、家庭的な生活 三、生きがいのある生活」を理念として掲げ、地域の中であおぞらのようにさわやかな笑顔と心をもってサービスを提供していきたいとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者の生活の中で不自由な点が増えてきても本人の気持ちや意向を大切にしたい。出来ないことでも生活の場面に参加していただき、生き甲斐を持てるような取り組みを支援したい。以上のように理念に基づき、まずは職員一人一人が入居者の言葉に耳を傾けることから実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民とは、自治会に加入しているほか、散歩時に挨拶を交わしたり、ホームの駐車場を開放して使用してもらうなど日常的な交流をはじめ、職員と入居者で近隣の清掃活動もおこなっている。自治会、地区の大きな行事にも参加している。中学校との交流もなされており、昨年暮れには合唱部の訪問があった。その他にも運営者が依頼されて近くの高校においてヘルパー養成に関して介護概論の講師を務めた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員を中心に全員で取り組んだ。自己評価票を全員に渡し各自記入したものを職員でとりまとめた。個々の職員の支援に対する理解、到達度を推し量ることができ、日々のケアに対する振り返りの機会として有効に活用している。		自己評価並びに外部評価において表出した気づきや改善点への取り組みにあたって、改善へのプロセスをスタッフ全員で共有し、計画的に実施し確認していく上で、改善計画シートの作成が望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族代表、町内会長、地域包括支援センター職員、運営者、職員をメンバーとして開催されている。活動状況については会議資料としてまとめて毎回配り報告している。今後会議内容の充実をはかるべく、より事業所の活動をわかり易く伝えるための会議メンバーの行事参加、交流、見学の場を会議に取り入れることも検討していきたいとしている。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課の担当職員とは連絡を取り合う機会も多いが、単独型ホームとしての行政との連携に留まらず、ネットワークで行政へアピールすることを運営者は目指しており、島原市グループホーム連絡協議会、介護福祉士会と行政との連携で市民フォーラムの開催を今年5月に予定するなど取り組みを意欲的に始めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホーム便り」を、今春発行を目標に準備を進めている。入居者の近況報告を中心に個別に当てた内容で職員で担当を決めて取り組む予定としており、2,3ヶ月に1回の発行を目指している。現在までは、家族の面会も多いことから、その折に口頭で近況報告はなされており、運営者もこまめに家族へ連絡をとっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理に関する規程のもとに窓口を設け対応する他、ホーム内に意見箱を設置している。年に1回、敬老祝賀会の際に家族に参加いただいて、事業所より活動報告また要望を伝え、家族からの意見、要望をうかがう場としている。日常、面会時にも話しやすい雰囲気配慮している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職などの職員の異動は少ない。異動がある場合は引継ぎ期間を1ヶ月として入居者への影響がないように最大限配慮している。新人職員の紹介は入居者へはもちろん、家族へも面会時に必ずおこなっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会、介護福祉士会、リハネットや病院主催の勉強会など、運営者のバックアップもあって多岐にわたる外部研修の機会に多く恵まれている。機会が多だけに職員の向上心も測られることとなり、自然に職員間でも誘い合って勉強会、研修会に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会における合同研修会など活発に参加活動し、交流が図られている。また、運営者が新人職員を伴って他事業所を訪問見学する機会や新規開設の事業所の職員研修の受け入れなど交流を通じてケアの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族に見学いただき、面接もして納得して入居いただいている。最近の事例では、病院からの入居で当初は不安な点も多かったが薬に頼ることなく見守りながら、入居者同士の会話の中から「したいこと」の本音を引き出し細やかな支援に繋げることで笑顔もみられるようになり、ホームでの生活に馴染むことができた。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者との語らいの場面を多く持つようにしている。回想談が中心となるが、繰り返しかがう戦争体験の話は職員にとって初めて知ることも多く入居者に対する敬意と共に学びも多い。昔ながらの食に関する話題も興味深いかうがっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人、家族からの聞き取りなどによって「その人像」を把握し、その後微調整をおこなっている。センター方式を一部導入し、より本人の思いや意向の把握に努めたいとしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランは計画作成担当が本人、家族の意向をふまえて作成した原案に、職員の気づきを上げ話し合っていく形で作成している。運営者は職員育成も見据えて、担当職員が中心となったプラン作成に徐々に取り組んでいきたいとしている。</p>		<p>時間をかけ、入居者、家族とのコミュニケーションも今以上に図るよう努めての職員によるプラン作成への今後の取り組みに先立ち、ケアプランを意識した記録のあり方を再考し、取り組みに活かしていくことに期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しを3ヶ月としており、毎月1回、ケアプランの実施状況と状態の変化や問題点について記録や職員の気づきをもとに話し合い評価を実施し、新たなプラン作成へ繋げている。</p>		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の外出、受診支援の他、高齢である家族の面会を支援する為に送迎も一部おこなっている。地域における福祉の拠点として、看板に「相談事はお気軽にどうぞ」といった文言を加え地域住民への働きかけとお手伝いができないかと検討している。また今後は小規模のデイサービスを併設し、幅広いニーズに対応したいと考えられている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援は事業所において対応している。受診結果に関しては家族へは電話で伝え、また個人記録、受診記録へも内容、対応を記している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者、家族からは同意書をいただいております、必要性が生じた際は、医療機関、家族、事業所の三者で話し合いを重ねていく旨を家族へ伝えている。事業所内で最期を迎えられ通報の際「事件性がない」立証をもってスムーズにする為、看取りの事例をあらかじめ伝えておくなど、今後は地域警察との連携も考慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「言葉使い、言葉かけ」に、特に留意している。調査当日も管理者は気づきを職員へ向けて注意し、親しさが高じての馴れ合いに対する注意を払うこと、常に家族の心象を思いやることを伝えたと話しておられた。入居者への敬意を忘れることがない日々の支援に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、その中のリハビリ体操、お口(嚙下)の体操にも自由に参加いただき思い思いに過ごしていただいている。居室へ閉じこもりがちにならないように、なるべく無理強いしない程度で日中は居間で過ごしていただくような配慮をしている。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べたいものを提供したい」を支援の念頭において、調理師の資格をとった職員が2名いる中、美味しい食事の提供に気を配っている。介助は多くはないが嚥下に関して注意、見守りが特に必要な入居者が3名おられ、現在、職員は昼食時のみ共に食事を摂っていないが、常に同じ目線で楽しく会話しながら支援にあたっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回としているが、要望があれば毎日でも対応し、失禁時の清潔保持も含め柔軟に支援している。入浴は午前中が中心であるが、心地よい睡眠を誘うために、就寝前の足浴・マッサージの支援もおこなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日差しの明るい居間で入居者同士や職員とのおしゃべりに興じられたり、切り紙が得意な方は熱心に終日取り組まれ作品を作られている。ドライブも楽しみで週に2,3回は5,6名の方が職員2名と出かけられている。出来る範囲で洗濯物たたみや茶碗拭きを手伝っていただいたり、ホーム前の畑で畑仕事に携わっていただいたりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩、食事の献立の為の買い物に職員と連れ立って出かけるなど日常の外出に対する支援に心がけている。今年度は、秋に念願の遠出のドライブに7名が参加でき、西海橋、祐徳稲荷、堤防道路と様々なスポットをめぐり入居者に大変喜ばれた。「出かけた場所へ出かける支援」を目指し、今後もドライブの機会をもちたいとしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠されておらず、出入りは自由である。安全確保の為入居者の外出には見守りをもって対応しているが、外来者のことも考慮し、出入りをセンサーで感知して知らせるチャイムを念のために設置している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練、地域消防団との連携に加え、今年度はスプリンクラーも設置し更なる設備の充実も加わった。昨年度の外部評価による指摘にあった自然災害時の対応に関するマニュアル作成、できる限りの備蓄、持ち出し品の準備に関する取り組みについては、それぞれ検討し継続して取り組みの過程にある。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスに気を配りながら、買い物に出た際のその日の新鮮な旬の食材を取り入れて職員がたてている。嚥下に注意が必要な入居者がおられる為、とろみをつけたり食前に嚥下体操を行うなど誤嚥防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光が十分な共有スペースは大変明るく、調査当日も真冬でありながらリビングは陽光に包まれ暖かく快適であった。キッチン、食堂兼居間、居室に到る廊下まで視線をさえぎられることもなく目配りがしやすい間取りである。写真やカレンダー、季節を感じさせる掲示などがあり、掃除、整頓が行き届いた共有空間は清潔感がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、ベッド、クローゼット、洗面台が備え付けであり、一部の居室にはトイレも備わっている快適で機能的な居室である。設備が充実している分、整理されて、やや持ち込みの品が目立たずすっきりとした印象もあるが、家族へは持ち込みの働きかけもされている。冬季の風邪対策に配慮して、家族へ協力を呼びかけ加湿器の持ち込みも多くみられた。		